



2012.3
第51号

大学女性協会東京支部

東京支部への新たな期待



JAUW会長 青木 怜子

大学女性協会はこの四月から法人格を「一般社団法人」としてスタートします。法人格が変わると言っても、教育を軸とし女性の地位向上を目指す協会の活動方針に何ら変わることはありません。変革を求められるとすれば、それは協会が行う事業の明瞭化と、本部・支部の一体的活動のあり様なのです。

東京支部は他支部と異なり、本部事業と活動拠点を同じくするため、とかく支部固有の活動が見えにくいとか、本部事業の手助けに徹しているのではないといった不満もありました。また東京支部には、多くの会員数を持ちながら実働出来る人材が僅少といった大支部特有の難問もあります。

しかし今回、新しい法人格に移行することで本部との一体化を求められる支部にとっては、むしろ従来の

東京支部のように本部に寄り添い、本部とともに動く活動の在り方が、逆に他支部に対し新たな方向付けを示せるのではないかと思います。

勿論、支部が主体的に活動目標を立て、その実践を図るというアクティブな活動づくりが必要です。しかし、それを協会全体に反映出来るような活動に展開出来ることが期待されています。本部にとっても刺激となるような、あるいは本部とともに協働できるような活動が東京で示されれば、これを他支部とも連携させ、時には本部の活動に取り込んで、協会の事業として育てる方法もあると思います。このモデルが東京で定着すれば、他支部も地方から同様な発信を協会全体に及ぼすことができ、それこそ本部・支部一体の活動形態が自然発生するのではないかと考えます。

本部事業は、もともと協会全体の事業でありながら、本部独自の事務局があるわけでもなく、それを支える支部の支援が必要とされています。もし、支部が発信できる活動を多方面からしていくようになれば、本部活動の事業を手助けする支部も増え、本部事業の機能ももっと有効になるのではないかと考えます。本部に近い東京支部は、どうしても実

行面で支援していただくことは多いかもしれませんが、ただ、あずかるだけの仕事という意識はぜひ拭えるよう、支部、本部共に工夫して行きたいものです。

事業報告・予定

10・15 JAUW全国セミナー「改めて問う、「市民社会」を構成するNGO活動」とは」
於・嵐山NWE C

11・9 国際奨学金贈呈式・茶話会
奨学生エマン・アブデルナビ氏

11・25 講演会「日本の安全・安心神話」
稲井巡氏

1・7 新春のつどい・国内奨学金贈呈式
講演会「ルワンダ再建を支えた女性たち」
ルダシグワ・ガテラ氏

2・4 東京支部国際奨学金送金
ルダシグワ・真美氏

3・23 「ともしび」第51号発行
デアネさん（在ルワンダ）

4・21 東京支部総会
記念講演「光きらめくモロッコ」

5・12 JAUW第一回定時会員総会
於・都市センターホテル（東京）

7・25 「ともしび」第52号発行
☆秋に東京スカイツリー見学会、講演会

なども予定しています。
以後の事業は追ってお知らせいたします。

東京支部活動の行方

— 知ってください —

支部のこと

支部長 小澤 紀子

先号に東京支部会員の年齢構成を伝えました。60歳代以上の計は75%、そのうち60歳代だけに限ると25% (80人) です。この構成で支部委員が実行可能案を有意義に感じつつ、実践するために支部活動はどうあればよいのでしょうか。

ここで「東京支部の危機」を正直に公表します。2年前に予兆が見えましたが、委員全員が個人的事情を抑えて続投しました。続投の条件は、私生活を尊重する、仕事を縦割りにしないでそのときにできる人が手を出して助け合おうという申し合わせでした。お陰で仲間意識が深まり、家では仕事の煩雑さのために息が出て、委員会で顔を合わすところろきに似た安堵を覚えました。

2年が経ち、新委員選任の時期が参りました。現委員の多くはこの3月で任期が8年間に達します。現委員には介護や育児ならぬ育孫や加齢

もあり、続投は無理という思いが強くなりました。新委員を誘えばよいのですが、本会の活動方針に賛同し、支持する意志を持つ方に出会うことが出来ませんでした。そこで、現委員体制のまま後2年間をつなぐことに同心を決めました。係は一応分担しましたが、全員支部長、全員会計、全員書記の心づもりです。

2年後には労力や時間を提供してくださる方が必要です。もし誰もいなければ東京支部委員会は消滅してしまうかもしれません。

24年度活動を従来通りに実行するには支部委員増員が必要です。あるいは臨時手伝いでもよい。現委員だけでなく支部活動も変えざるを得ないかもしれません。

支部会員同士の交流を広めるため楽しい企画、例えば、東京スカイツリー見学、講演会などを計画しております。多くの会員が気楽に参加できるように、見学場所を東西南北に散らすように工夫していくつもりです。

4月の総会では、支部のあり方について皆様のご意見、お考えをぜひお聞かせいただきたいと思います。

2011年度JAUW全国セミナー

「改めて問う、市民社会を構成するNGO活動」とはに「参加して」

(11・10・15・16)

本年度の全国セミナーは昨年のシンポジウム「国際活動と連携するNGO活動」のテーマを引き継いで10月15日・16日と2日間にわたって開催された。

会場のNWECCは秋の気配の嵐山、少々地の利の点で出席をためらわせる場所だが、全国から参加者が約110名あった。

第一日目は開会式、支部研究報告、委員会調査研究報告、懇親会。

第二日目は大西珠枝氏(放送大学学園理事)による基調講演、パネルディスカッション、懇談、全体のまとめ、閉会式。



長時間の内容の濃い、盛り沢山のプログラムになっていた。準備、運営を進

行された実行委員の方々のご苦労がしのばれた。東京支部は、第一日目だけ参加した。本部と共にミニ支部バザーを開催、休憩タイムでのお茶サービス、6時からの懇親会での余興プログラムを担当、お手伝いをした。懇親会々場の食堂は、今回、他の団体客も共有することになって貸切りではなかったため、大掛かりなこと、大きな音響はさげねばならず、結果、支部バザー係提供の商品(バッグ、アクセサリー、プリザーブドフラワー、キャンディなど)が当る。くじ引きを企画、はずれた参加者全員には手作りの楊枝入れを差し上げることにした。シンプルな企画と思ったが、出席の方々が子どもに返ったように楽しまれ、終日の会議の疲れを忘れられたひと時だったと好評だった。

(青澤紗知子)

東京支部国際奨学金
2012年度募集

問い合わせ先
(社)大学女性協会
東京支部国際奨学金係

TEL 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

E-mail: jauw@jauw.org

ご推薦やご紹介お待ちしております!

〈東京支部講演会〉

(11・11・25)

「安全・安心神話」

講師 稲井 巡氏



2011年は個人、社会の安全、安心を脅かすさまざまな自然災害、事故、社会情勢の変動を経験した年でした。それぞれの立場でリスクに関心が高まっているこの時期に、自衛官として長年テロや災害等に対する対策や技術開発に携わってこられた稲井先生の講演は、専門的な内容をまじえてのお話でしたが、身近な問題として大変興味深いものでした。

安全とは、安らかで危険のないこと、またその恐れのないこと。安心とは個人の主観的な判断に依存するところが大きいですが、心配、不安がななく心が安らぐこと。想定されるさまざまなリスクに対して対策が取られている、すなわち安全が確保されて

いることが信頼できて始めて安心が実現できるのです。

日本人は「安全だ」と言われると安心する、という国民性のようなのです。ところが、特に大震災後「言葉」に信頼性がなくなりました。大震災後の秩序だった東北の人々の行動は、まだまだ日本は安心な国との印象を内外に示しましたが、本当に安心な国なのでしょうか、と先生は問いかけられます。信頼できる言葉がないことが私たちが不安にしているように思えます。安心は関係する者の間の信頼関係がなければ得られないものだからです。

かつての日本は地縁、血縁社会で信頼の持てた社会でした。戦後都市化され、職縁、無縁社会となり「安全・安心な社会」が崩壊したと感じている人が多くなりました。大震災後「絆」という言葉がよく聞かれるようになったことは、このばらばらな人間関係への反省からではないでしょうか。

放射能、日本近辺の不穏な動き、経済を取り巻く環境の変化等への不安について、講演後参加者から先生への質問は尽きず、予定時間を大幅にオーバーして終了となりました。

(大川 薫代)

〈東京支部講演会〉

(12・1・20)

「ルワンダの再建を
支えた女性たち」講師 ルダシングワ・ガテラ氏
ルダシングワ・真美氏

今回の講師は、ルワンダ在住のルダシングワ・ガテラさん、真美さんご夫妻です。

ルワンダを語る時に、避けて通れないのが、百万人の犠牲者が出たと言われるあの大虐殺でしょう。あれから18年、ルワンダは、今、「アフリカの奇跡」といわれるほどの、目覚ましい復興と発展を遂げています。

お二人は、大虐殺の2年後から、障害者のために義足を作り、それを無償で提供する活動を続けてこられました。ルワンダの復興と軌を一にするような活動の実態は、映像を通して解説していただきました。湿地

を開拓して、建物を建てることから始まった活動は、並大抵の苦労ではなかったと思われますが、その一方で、新しい国造りの一端を担っているという希望に満ちた道程でもあったようです。その間に提供された義足は、六千本にも上るそうです。

後半は、その再建を支えた女性たちの話です。

殺害されたのは、圧倒的に男性が多く、一家の主を失った女性たちは、生活の糧を求めて立ち上がらざるを得ませんでした。ルワンダの主要産業であるコーヒー園の経営に乗り出した女性たちは、一人ひとりはいくつでも、力を合わせて働くことで成功を収め、自信を付けていきました。その自信は、政界、官界、実業界でも力を発揮し、各界の要職に就く女性が増加しました。その躍進振りには、国会議員の女性比率が世界一という数字にも表れています。大虐殺が要因となり、女性の社会進出が進んだのは、なんとも皮肉な話ですが、女性パワーが「アフリカの奇跡」を成し遂げた原動力となったのは、言をまたないでしょう。現地で地に足を付けた活動をしてこられたお二人の講演は、興味深く、聞き応えのある内容でした。(鈴川 佳子)

東京支部国際奨学金

国際奨学生の近況

現在2名の方に
送金しています。

□カルメラ・

タンボンゴクさん
(在フィリピン)

彼女はミンダナオ島・ビラーン民族出で、昨年十二月現在18才で大学2年生、教育学部に学び、2012年12月に卒業することになる。卒業前に結婚させられる人も少なくないという中でよくがんばっている。

暮れにお礼の手紙が届いた。2、3科目の単位を落としたが挽回できるので努力する旨書いてあった。

学生寮に入っており、年間費用が6万円である。東京支部は2万円を支給しており、4万円はミッション系団体が援助しているという。

□ウムリナ・ガクバ・ディアネさん
(在ルワンダ)

彼女は現在、教師装具士として働きながら、スクール・オブ・ファイナンス・アンド・バンキングの4年生で、経済学を専攻している。年間学費10万円のうち、支給額2万円は、物価の高いルワンダでは価値のある支援となり感謝された。

□エマン・アブデルナビイさん

JAUW国際奨学金授与式とお茶会
11年11月9日、支部定例委員会後、JAUW国際奨学生エマン・アブデルナビイさん(エジプト出身)をお迎えして、国際奨学金授与式とお茶会を開催しました。エマンさんのお主人と6ヶ月の息子さんも同席され、なかなかひとときでした。



新春のつどい

国内奨学金贈呈式

(12・1・7)

快晴に恵まれた1月7日、京王プラザホテルで恒例の新春のつどいが開催されました。120名を超える出席者があり、東日本大震災の後ながらも、新しい年を迎えた和やかな雰囲気になって会は始まりまし

た。
奨学金贈呈式では、一般奨学生6名、社会福祉奨学生3名、安井医学奨学生1名に奨学金が贈られました。大学院生、大学生の皆様の若々しい強さにあふれた研究発表を聞いていると、ガンはそう遠くないうちに撲滅できるようになるにちがいないと確信でき、今はたいへんだけれど、日本はきっとよくなると思えました。

本年度は特にIFUWからの申し出により、Hegg Hoffset奨学金が3名の方たちに贈られました。この奨学金は、1938年に創設され、自国で働き生活する権利を奪われた女性を援助するための基金です。その発展に長年尽くしたスイス人のHegg Hoffset女士



心から願わずにはいられません。

奨学生の方々の研究の詳細は、JAUW244号に掲載されています。ぜひ一読ください。

奨学金贈呈式の後、塩谷靖子さんのソプラノコンサートがありました。ピンクのドレスに身を包み、お嬢さんの塩谷多衣さんのピアノ伴奏で、『早春賦』に始まり『マイウェイ』で締めくくられたミニ・コンサートは、視覚のハンディキャップにもかかわらず、前向きで、強い意志とエネルギーを注いだ塩谷さんの人生の一端を私たちに見せてくださいました。
例年通り、支部バザーも開催いたしました。
(早瀬 暢子)

の功績を称え、1968年に彼女の名前が冠せられました。3名の方々は、それぞれ昨年の震災で被災され、IFUWからのこの奨学金が大いなる励みになるよう

サークル活動で 支部会員の交流を！

東京支部会員は現在約300名、主な年齢層は60〜70代です。人生の節目を英知で乗り越えた人生のベテランです。その合間に続けられた趣味なども一流にならているはずで、仕事や日常の忙しさに追われてやり残したことをチャレンジする余裕もそろそろあるのではと思います。これまでに培われたスキルを提供、教えてくださる方、こんなことを学んでみたいと思う方、サークル活動での交流はいかがでしょうか？

すでに、英語講座、源氏物語を読む会Ⅰ、Ⅱ、水墨画教室のサークルは活動中です。

☆ 江戸時代の古地図を読む

☆ イスラム教の社会を学ぶ

☆ 麻雀、ブリッジ

☆ 編み物、小物作り

☆ 東京散歩

などの開講希望も支部に寄せられています。

指導していただける方、その他皆様方のご意見、ご提案を支部にお聞かせください。

東京支部サークルのこのごろ

源氏物語を読む会Ⅰ・Ⅱ

いづれの御時にか、女御更衣あまたさぶらひける中に、いとやんごとなき際にはあらぬがすぐれて時めきたまうありけり……で始まる源氏物語は誰でも知っているけれど、この世界最古の長編小説全巻54帖を読み終えるのは、なかなか大変なことです。東京支部では今から十数年前、坂上栄美子会員を講師として、月2回のペースで講読を始めました。本文を一人一段ずつ声に出して読み、宿題や試験は一切なしです。先生の説明で、今と違う時代背景、特に女性の立場などを知り、思ったことを話し合っ、和やかで楽しく進みました。そのうち希望者が増えたので月3回読む会もスタートしました。

その間、京都、奈良、宇治などゆかりの地を訪れ、千年の時空を超え実感のこもった旅行を楽しみました。

二つの会は大差ない時期に読み終え、その充実感、達成感は何にも代えられない心の宝となりました。余韻さめやらず、坂上先生に感謝しつつ、若菜の巻あるいは桐壺の巻から読み続けております。(酒葉美智子)

英語講座

この講座は現在「AN ILLUSTRATED HISTORY OF BRITAIN」を読みながら、イギリスの歴史を学んでいます。十九世紀のヴィクトリア朝まで進んで来た時には、ちよつと寄り道をして、難解なウィルソンの「THE VICTORIANS」に立ち寄ってみました。この折には、元法政大学教授 松本先生の丁寧な注釈が心強い助けとなりました。

今は二十世紀に入っていますが、世界に先駆けて産業革命を導き先進国となったイギリスで、二十世紀近くまで、妻は夫に鞭で打たれたり、離婚は許されなかつたりということが当然であったという状況に驚かされ、表面には出ない、女性の権利その他イギリスの隠



部屋に閉じ込められたり、離婚は許されなかつたりということが当然であったという状況に驚かされ、表面には出ない、女性の権利その他イギリスの隠

れた諸事情を知ることができ、興味は尽きません。(百束 礼子)

水墨画教室

5年ほど前のこと、当時の東京支部長森川淳子さんの誘いで、その昔書道を長いことやっていたからという簡単な気持ちで水墨画教室に入会。墨と筆を使い同じように白と黒と空間の世界を演出するものと思っていました。ところが、聞くところでは大違い、書道も奥が深い、水墨画はかなりなもので、私自身目下すっかりはまっています。今日この頃です。

華の墨絵会を主催され各所でお教室を持たれている先生のお手本で勉強するうち、花鳥風月など、旅先での見る目まで変わってきたのは素敵な事です。このたび森川さんに肩を押される形で新国立美術館で開催された国際書画展に出展できたのもお稽古の甲斐があったというもの。先生に感謝です。今からでも遅くないのでご入会の方お早めに！

(藤谷 文子)



2012年
東京支部総会のお知らせ

・四月二十一日(土)13時～14時10分
・津田ホール一階会議室

(千駄ヶ谷駅前)

・記念講演 14時45分～16時30分

演題「光きらめくモロッコ」

―改革の進む北アフリカの親日国―
講師 広瀬晴子氏 (東京支部会員)

元モロッコ特命全権大使

〔講演概要〕

昨今アラブの春と言われる民主化の嵐が吹き荒れた北アフリカでも安定した王室を持つモロッコでは、47歳の国民に人気のある王様のもと、改革が大きく進み、11月の総選挙で穏健イスラム党首を首相とする新内閣が12月に発足しました。

古くから、文化の交差点として、豊かな農業国として多くの人々を惹きつけてきた王国ですが、人々は穏やかで大変親日的です。モロッコとはどんな国か、人々の暮らしは、特に女性たちの暮らしぶりについてお話ししたいと思います。

※支部会員外の方(参加費無料)も

お誘い下さい。

※支部総会については、別紙にてお知らせいたします。

サークル案内

★英語講座

連絡先・宮下好子

(☎〇三―三三三―一―三七五八)

★源氏物語を読む会(Ⅰ)再読

源氏物語クラス「若菜」より

連絡先・堀内洋子

(☎〇四五―九八三―四六八〇)

★伊勢物語クラス

連絡先・木村和子

(☎〇三―三三三―一―八四六九)

★源氏物語を読む会(Ⅱ)再読

源氏物語クラス「桐壺」より

連絡先・中山律子

(☎〇三―三三三―一―四六二八)

★水墨画教室

連絡先・森川淳子

(☎〇四五―五八三―三四三〇)

東京支部委員会の委員を募集中!

毎月(8月は夏休み)第2水曜日に委員会があります。JAUWは新法人になり支部運営

がかわります。

会員の皆様のご参

加、ご協力をぜひお

願い申し上げます。

親しみやすい楽しい

企画を一緒に考えて

ていきましょう。



2011年度東京支部新入会員(敬称略)

(2011年2月現在)

氏名	出身校	氏名	出身校
川原 美代子	国学院大学	川原 美代子	国学院大学
眞田 雅子	カリフォルニア大学	眞田 雅子	カリフォルニア大学
廣瀬 晴子	東京・スタンフォード	廣瀬 晴子	東京・スタンフォード

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

氏名	出身校	氏名	出身校
田中 トモ子	奈津・立津	2011年4月23日	ご逝去
川本 ひ悦子	津・立津	2011年5月3日	ご逝去
山島 玲子	日・女	2011年9月24日	ご逝去
		2011年9月22日	ご逝去

★ご寄付いただきました。ありがとうございます。

清水季子氏

二万円

源氏物語を読む会Ⅰ

一万円

源氏物語を読む会Ⅱ

一万円

伊勢物語を読む会

一万円

英語講座

五千元

水墨画教室

五千元

★寄付いたしました。

国内奨学金

十万円

◆住所等ご変更の場合は、事務所までお知らせください。

◆使用済みの切手を事務所までお送りください。

◆会費未納の方は、用紙の「振込みのご案内」を参照の上、どうぞお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。



〔編集後記〕

頭を寄せ合つての編集作業、第51号も無事終了しました。読んでくださる会員の方たちとの絆が深まることを願っています。(S・A・O・H)

ともしび 五一号 発行日 二〇一二年三月二十三日

発行 社団法人東京支部 編集 ともしび係

〒100-0001 新宿区左門町十一番六〇一

Fax Tel 〇三―三三三―五八二二 印刷 タナカ印刷株式会社